

# いわき農林ニュース

(ごちそう ふくしま絆づくり運動ニュース)



発行 平成22年10月26日



## 「児童生徒木工工作コンクール」が開催されました。

9月4日(土)、5日(日)、いわき市平のヨークベニマル谷川瀬店において、木の良さを再発見するとともに、児童生徒の造形能力の発達を図ることを目的として、福島県木材青壮年協会いわき支部の主催による「第16回いわき市児童生徒木工工作コンクール」が開催されました。



(いわき農林事務所長賞「デコトラ」(栗須 開夢))

コンクールは、いわき市内の小学校36校より1,106点の作品応募があり、審査の結果、いわき農林事務所長賞には、工作技術やデザインに優れ、木の持つ質感を活かした、いわき市立上遠野小学校3年生 栗須開夢さんの作品「デコトラ」と、いわき市立夏井小学校5年生 鈴木桃香さんの作品「想像紙しばい」が選ばれました。



(いわき農林事務所長賞「想像紙しばい」(鈴木 桃香))

審査会後の展示会には、応募作品の内379点が展示され、親子や買い物客など約1,200人が来場し、自然木の風合いを取り入れた作品や大人顔負けの作品に見入っていました。

このコンクールで優秀賞となった作品16点については、福島県児童生徒木工工作コンクールに推薦されることになっており、鈴木さんの作品は、福島県教育長賞を受賞しました。この作品は、来年3月に水戸市で開催される全国コンクールにも出品されることとなりました。

なお、16点の内、優秀作品となった9点は、10月23日(土)、24日(日)に郡山市の県林業研究センターで開かれる福島県林業祭においても展示されました。



## 「稲ホールクroppサイレージ技術検討会」を開催

9月6日(月)、三和ふれあい館において、畜産農家、耕種農家や関係機関・団体等の参加により、平成22年度いわき地方稲WCS(※1)技術検討会を開催しました。

稲WCSは、水田の有効活用と飼料自給率の向上に係る品目として期待が高まっており、耕種農家と畜産農家のマッチングが進み、今年度の作付面積が昨年の2haから18haへと拡大しました。

検討会では、高品質・高収量の稲WCSの生産と安定的な利活用を図るため、適切な栽培と収穫・調製による品質改善や収穫機導入などの課題について検討しました。

畜産農家や耕種農家から、専用品種は何を使えばよいのか、専用品種種子の入手はどのようにすればよいのか、稲WCSの保管中におけるネズミなどの被害対策についてなどの質問が出ました。

また、要望として、ロールベールラッピング(※2)体系ではなく、コンパクトベール(※3)での収穫調整、耕種農家と畜産農家間の連携システムの創設などの意見がありました。

今後は、稲 WCS の品質向上と作付面積拡大により自給飼料の増産を図り、農業所得向上に繋がることが期待されます。



(稲 WCS 収穫ほ場での意見交換)

- ※1 稲の穂と茎葉を丸ごと乳酸発酵させた粗飼料
- ※2 ハウムクーヘン状に巻かれた草をくるんだもの
- ※3 直方体(箱形)状に束ね乾燥した草をくるんだもの



## 「田んぼの生きもの調査」を実施

9月7日(火)、四倉町のいわき市立大野第一小学校周辺において、「ふくしまの農育」推進事業の一環として、田んぼの生きもの調査を実施しました。



(水路の環境調査)

この活動は、大野第一小学校の4、5年生児童25名が参加して、農業生産だ

けでなく、様々な生物のすみかとなっている田んぼや水路にどのような生きものがいるのか調査、学習することを目的としています。

調査は、小学校周辺の用水路を中心に、それぞれ4つの班に分かれて行いました。

はじめに、「環境調査」として、水路内の水温・流速・水質等を調べ、生きものがどんな環境で生息しているのか学習しました。

引き続き、「生きもの調査」を行い、児童達はタモ網を持ってカエルや魚類、水生昆虫類を捕獲し、種類毎に分類しながら数を調べました。



(タモ網による生きもの調査)

調査の結果、カエル類では、トウキョウダルマガエルやニホンアカガエル、魚類ではタモロコやドジョウなどが生息していることが分かりました。

そのほか、ザリガニもたくさん捕獲され、その多さに児童達は驚いていたほか、カエルを素手で触ることが初めての子どももあり、歓声や悲鳴も聞かれました。

最後に、各班で調査の成果をまとめ、自分たちで調査した生きものの種類などを発表し、児童達は身近にいる「生きもの」とふれあい、自然の大切さをあらためて認識している様子でした。



## 「食の安全・安心アカデミー(生産者コース)」を開催

9月7日(火)、15日(水)、いわき市中央卸売市場及び県いわき合同庁舎において、食の安全・安心アカデミー(生

者コース)を開催しました。

このアカデミーは、「食の安全・安心」の確保に向けて、生産者、食品製造・流通業者、消費者の相互理解の促進を図るため、農産物生産者等を対象として、安全な農産物等の提供に必要な知識の習得を目的としています。

第1回目は、「農薬適正使用等研修会」と題して、生産履歴記帳の重要性や残留農薬の事例紹介、エコファーマー等の解説と減農薬・肥料の栽培技術の習得をとおして、「食品の安全・安心に向けた取組み」の研修を行いました。当日は、生産者67名、関係機関10名の参加があり、関心の高さがうかがわれました。



(受講する参加者)

続く第2回目は、JAS法や食品衛生法、薬事法、景品表示法といった各法律に基づく食品表示について研修を行い、農産物生産者14名、加工業者3名、関係機関6名が参加しました。前回同様「食の安全・安心」への取組みや自ら出荷する農産物等への表示責任に対する強い意欲が感じられました。

参加者が今回のアカデミーで学んだことを生かして、今まで以上に「食品の安全・安心に向けた取組み」を実践していくことが期待されます。



## 「鳥獣被害対策研修会」 を開催

9月10日(金)、四倉町の大野公民館において、関係機関、生産者など30名が参加し、イノシシの被害対策を中心と

する「いわき地方鳥獣被害対策研修会」を開催しました。

はじめに、いわき市の鳥獣被害への取り組みとして、市農政水産課から、鳥獣被害防止特措法の概要、被害防止対策協議会、被害防止総合交付金について、市農業振興課から鳥獣被害対策事業について、市環境企画課から、有害鳥獣捕獲(イノシシの予察捕獲)について説明がありました。



(いわき地方鳥獣被害対策研修会)

次に、農林水産省農作物野生鳥獣被害対策アドバイザーの須永重夫氏から、イノシシの生態や捕獲技術について講演があり、この中で、今年度いわき市が購入した「イノシシ用箱わな」の効果的な設置法について開発を行った講師本人から説明がありました。

最後に、県農業総合センターの大槻主任研究員より、会場近隣で集落分析を行い、竹やぶや山林と家・田畑が接近していること、遊休農地があること、エサになりそうな植物(クリやカラムシなど)も豊富であることが判明し、イノシシにとって、住みやすい環境であることが指摘されました。

また、現在、被害に遭っている集落では、被害発生地点を地図に書き出して現状を把握し、集落全体で遊休農地や山林の管理を行い、イノシシが住みにくい環境を作ることが重要であることの説明がありました。

参加者は、現在、鳥獣被害防止に取り組んでいる方が多く、充実した研修会となりました。

鳥獣被害は、個人の対策には限界があり、この研修会を契機として集落ぐるみの取り組みが増え効果的な鳥獣被害対策が進められることが期待されます。



## 「農業ふれあい講座（秋冬野菜栽培指導会）」を開催

9月12日（日）、いわき市夏井公民館において、いわき農業青年クラブ連絡協議会主催による「農業ふれあい講座 秋冬野菜栽培指導会」が開催されました。

いわき農業青年クラブ連絡協議会では、野菜づくりを通して市民に農業への関心と理解を深めていただくため、一般消費者の方々を対象とした「農業ふれあい講座」を4月から12月にかけて計4回開催しています。

本講座は、クラブ会員が栽培についてアドバイスをしながら、参加者が実際に野菜づくりを体験するもので、4月の第1回講座「開講式」、6月に第2回講座「栽培指導会」を行い、今回は、第3回講座として「秋冬野菜栽培指導会」を行いました。

当日は、あいにくの雨天のため、会場を平夏井地区現地ほ場から夏井公民館に変更して、6家族7名の方が参加して行われました。

指導会は、クラブ会員が受講生に対して秋冬野菜栽培に向けたほ場の準備、栽培する野菜の種類、選び方及び栽培時のポイント等についての説明を質疑応答形式で行いました。参加者は、クラブ会員に対して熱心に質問しながら、それぞれ興味のある項目について見識を深め、参加者とクラブ会員とが共にふれあう講座となりました。

今後は、12月に1年間の収穫を祝う「収穫祭」を開催する予定です。



（農業ふれあい講座(秋冬野菜栽培指導会)）



## 「いわきdeマルシェ」が開催されました。

9月20日(月)、小名浜さんかく倉庫「小名浜潮目交流館」において、「いわきdeマルシェ」が開催されました。

この催しは、いわき市農産物直売所連絡協議会が主催したもので、いわき地方の農畜産物販売のため、市内から農産物直売所など20団体が出展して行われました。

当日は、朝からの強い雨で、午前中の人出は少なかったものの、午後には雨が上がり多くのお客様が訪れました。特にJAいわき市梨部会の梨詰め放題を目当てに行列ができ、すぐに売り切れとなっていました。

今年の梨は、甘さが評判で、生産者もPR用マスコットの「ナシコ」と一緒に「サンシャインいわき梨」の積極的なPRに努めていました。



（マスコットの「ナシコ」によるPR）

また、有機農業実践者が有機・特別栽培農産物を持ち寄ってPRを兼ねて販売しましたが、多くの人に購入していただくことにより認識は深まったようです。

そのほか、生活研究グループや花き切り花研究会などからも出展され、「いわき地方の農産物」の消費拡大に向けPRが図られました。



## 「田んぼの学校（稲刈り）」を実施

9月21日（火）、いわき市立夏井小学校において、同校と連携して実施する「田んぼの学校」稲刈りを行いました。

稲刈りは田植えと同様に学校行事として、全学年児童が参加し行われました。

児童達は、それぞれ鎌を使って手作業で稲を刈り取りました。



（手作業の稲刈り）

当日は、前日に雨が降ったこともあり、田んぼはぬかるみ、動きにくい状況での作業となりましたが、児童達は泥に足を取られながら、約3時間をかけて約5aの刈り取りを終え、収穫の喜びを味わっていました。

収穫した稲は「こがねもち」という品種のもち米で、11月上旬に脱穀したあと収穫祭で餅つきをして食べる予定となっています。



（稲刈り終了）



「愛谷江筋施設見学学習会」  
を開催

9月29日（水）、愛谷江筋の施設において、いわき市立夏井小学校の4年生児童を対象とした「愛谷江筋施設見学学習会『愛谷江筋教室』」が開催されました。

この学習会は、地域の農業用水利施設やその水源について理解を深め、施設の維持管理の大切さを知ってもらうため、水土里ネット福島と水土里ネット愛谷堰（土地改良区）の協力を得て開催したものです。

当日はバスで、小川江筋の堰を見学したあと、愛谷江筋頭首工を見学したほか、江筋内のゴミを取り除く除塵機（じょじんき）についての説明を聞き、最後に排水機場を見学しました。



（江筋の施設（頭首工）見学）

各見学箇所で、児童達は積極的に質問をするなど、施設について意欲的に学習し、自分たちを取り巻く環境や水利施設が果たす役割について理解と関心を深めることができたようです。



（江筋の施設（排水機場）内部の見学）



「食彩ふくしま地産地消推進店」認定証交付式を開催

9月30日（木）、県いわき合同庁舎において、「食彩ふくしま地産地消推進店」認定証交付式を開催しました。

「推進店」は、福島県が進める地産地消の趣旨に賛同し、県産農林水産物を積極的に利用したメニューの提供等を行い、県産農林水産物の良さを一層県民に広めるための取り組みに協力していただける「飲食店」を認定するものです。

3年目となる平成22年度は、福島県全体で65店が新たに認定されました。

このうち、いわき地区で認定された9店に対し、認定証と認定マークを交付しました。

また、交付式の後に行われた情報交換会では、新規認定店と昨年度までに認定を受けた中から6店の代表者が出席し、各店での地産地消の取り組み状況等の発表や意見交換を行い、今後の取り組みの参考としていただきました。

市内37の「推進店」では、県産農林

水産物を積極的に利用したこだわりの地産地消メニューが提供されています。

皆さまもお近くにお越しの際は、ぜひお立ち寄りいただき、その味をお楽しみください。

店名等詳しくは、いわき農林事務所のホームページをご覧ください。



(平成22年度地産地消推進店の認定店)

## いわき農林事務所からのお知らせ

- ◎ 第2回「いわき地域産業6次化ネットワーク」  
日時：10月26日(火) 13:30～16:00 会場：県いわき合同庁舎4階大会議室、中会議室
- ◎ 「いわき地方農産物直売所等合同フェア」(※出展者を募集しています。)  
日時：11月3日(水) 10:00～15:00 会場：小名浜さんかく倉庫「小名浜潮目交流館」
- ◎ 「JAまつり2010(第4営農グループ)」  
日時：11月3日(水) 時間は別途 会場：いわき市三和ふれあい館
- ◎ 「スローフード・食らんど」  
日時：11月6日(土) 10:00～14:00 会場：いわき市平市民運動場
- ◎ 「第61回いわき産業祭」  
日時：11月6、7日(土、日) 8:30～14:00 会場：いわき市四倉町ほか
- ◎ 「JAまつり2010(第5営農グループ)」  
日時：11月7日(日) 時間は別途 会場：JAいわき市第五営農センター(山田町林崎前)
- ◎ 「田んぼの学校」(脱穀)  
日時：11月9日(火) 9:00～ 会場：いわき市立夏井小学校
- ◎ 「JAまつり2010(第3営農グループ)」  
日時：11月13日(土) 時間は別途 会場：JAいわき市小川支店
- ◎ 「第6回いわき大物産展」  
日時：11月13、14日(土、日) 時間は別途 会場：小名浜さんかく倉庫「小名浜潮目交流館」
- ◎ 「田んぼの学校(学びの収穫祭)」  
日時：11月19日(金) 時間は別途 会場：須賀川アリーナ

◎ 皆様からのご意見・情報をお待ちしております。

福島県いわき農林事務所 企画部 地域農林企画課

〒970-8026 いわき市平字梅本15番地 Tel (0246)24-6152 Fax (0246)24-6196

URL <http://www.pref.fukushima.jp/norin-iwaki/>

E-Mail [iwaki.nourin@pref.fukushima.jp](mailto:iwaki.nourin@pref.fukushima.jp)



[iwaki.nourin@pref.fukushima.jp](http://iwaki.nourin@pref.fukushima.jp)